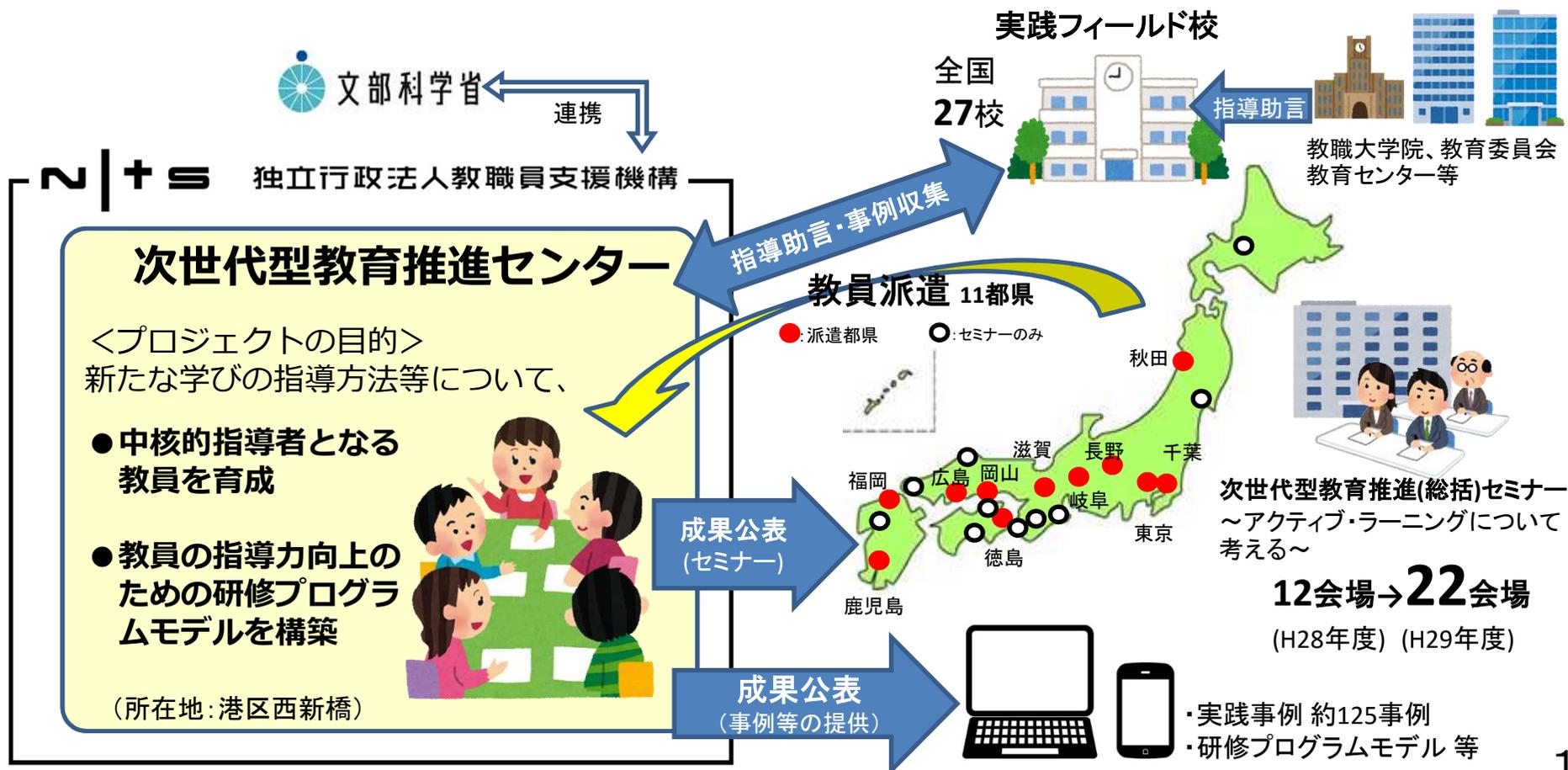


次世代型教育推進センター
— 新たな学びに関する教員の資質能力向上のためのプロジェクト —

平成29年11月現在

独立行政法人教職員支援機構（前 教員研修センター）次世代型教育推進センターでは「新たな学びに関する教員の資質能力向上のためのプロジェクト」を実施しています。このプロジェクトは、新たな学びの指導方法等について、関係機関等の協力を得ながら、各都道府県における中核的指導者となる教員を育成するとともに、教員の指導力向上のための研修プログラムモデルを構築することを目的としています。（平成27～29年度）



◇セミナー等による成果公表

○平成27年度次世代型教育推進セミナー～アクティブ・ラーニングについて考える～

(開催日) 平成28年3月16日

(会場) 一橋講堂

(内容) 基調講演「新しい時代の教育と学習指導要領改訂の動向」 成果発表「研修プログラムモデル案作成に向けた分析等」
シンポジウム「アクティブ・ラーニングについて考える」 成果発表・ポスターセッション「実践フィールド校の取組」

(参加者数) 641人

○平成28年度次世代型教育推進セミナー～アクティブ・ラーニングについて考える～

(目的)

新しい時代に必要となる子供たちの資質・能力を育成するためには、知識の質や量の改善と併せ、学びの質や深まりを重視することが必要であり、課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習や、そのための指導の方法等を充実させていく必要がある。そのため、全国10会場程度において次世代型教育推進セミナーを開催し、「新たな学びに関する教員の資質能力向上のためのプロジェクト（平成27～29年度）」を実施している教育委員会及び次世代型教育推進センターの取組の成果を公表し、全体で協議することにより、各域内全体の指導方法等の改善に資する。

(内容)

講義「学習指導要領改訂の動向」
発表・演習「実践を通してアクティブ・ラーニングを考える」
実践発表「実践フィールド校の取組」

会場 (開催地)	開催日	セミナー会場	参加者数
東京会場	平成28年 7月29日	一橋講堂(東京都)	197
千葉会場	平成28年 8月 2日	京葉銀行文化プラザ(千葉市)	130
福岡会場	平成28年 8月19日	JR博多シティ(福岡市)	102
長野会場	平成28年 8月26日	長野県総合教育センター(塩尻市)	90
北海道会場	平成28年10月14日	札幌国際ビル(札幌市)	100
岡山会場	平成28年10月18日	ピュアリティまきび(岡山市)	141
徳島会場	平成28年11月21日	あわぎんホール(徳島市)	111
鹿児島会場	平成28年11月25日	ホテルウェルビューかごしま(鹿児島市)	239
広島会場	平成28年12月 9日	広島県立教育センター(東広島市)	183
岐阜会場	平成28年12月15日	じゅうろくプラザ他(岐阜市)	201
秋田会場	平成29年 1月11日	ビューホテル(秋田市)	154
滋賀会場	平成29年 1月19日	ひこね市文化プラザ(彦根市)	138

参加者数 計1,786人

○平成29年度次世代型教育推進セミナー～アクティブ・ラーニングについて考える～

(目 的) 新しい時代に必要となる子供たちの資質・能力を育成するためには、知識の質や量の改善と併せ、学びの質や深まりを重視し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、授業改善に向けた取組を活性化していくことが重要である。そこで、新たな学びに関する教員の資質能力向上のための教育委員会及び次世代型教育推進センターの取組の成果を公表し、全体で協議することにより、各域内全体の指導方法等の改善に資する。

(内 容) ・講義「主体的・対話的で深学びについて」(講師：文部科学省担当官又は大学教員等)
 ・発表・演習「実践を通してアクティブ・ラーニングを考える」
 ・実践発表「実践フィールド校の取組について」 など

会場(開催地)	開催日	セミナー会場	参加者数
香川会場	平成29年 5月19日(金)	高松テルサ(高松市)	122名
三重会場	平成29年 6月30日(金)	三重県総合教育センター(津市)	197名
佐賀会場	平成29年 7月27日(木)	ロイヤルチェスター佐賀(佐賀市)	170名
島根会場	平成29年 8月 1日(火)	島根県立産業交流会館(松江市)	159名
東京会場	平成29年 8月 2日(水)	東京都教職員研修センター(東京都)	122名
長野会場	平成29年 8月 4日(金)	長野県総合教育センター(塩尻市)	128名
鹿児島会場	平成29年 8月 9日(水)	かごしま県民交流センター(鹿児島市)	235名
岡山会場	平成29年 8月16日(水)	ピュアリティまきび(岡山市)	162名
奈良会場	平成29年 8月18日(金)	ホテル日航奈良(奈良市)	274名
福岡会場	平成29年 8月23日(水)	JR博多シティ(福岡市)	88名
高知会場	平成29年 8月25日(金)	サンピア・セリーズ(高知市)	188名
北海道会場	平成29年 8月29日(火)	北海道第二水産ビル(札幌市)	164名
千葉会場	平成29年 8月29日(火)	千葉県総合教育センター(千葉市)	214名
広島会場	平成29年 9月29日(金)	広島国際会議場(広島市)	254名
和歌山会場	平成29年10月20日(金)	和歌山県自治会館(和歌山市)	125名
山口会場	平成29年10月26日(木)	山口県健康づくりセンター(山口市)	165名
徳島会場	平成29年10月31日(火)	徳島県教育会館 他(徳島市)	135名
滋賀会場	平成29年11月 7日(火)	ピアザ淡海、コラボしが21(大津市)	184名
秋田会場	平成29年11月17日(金)・18日(土)	秋田県民会館 他(秋田市)	
宮城会場	平成29年12月 7日(木)	TKPガーデンシティ仙台(仙台市)	

○平成29年度次世代型教育推進総括セミナー（東部地区・西部地区）

～アクティブ・ラーニングについて考える～

（目的）新しい時代に必要となる資質・能力を育成するための主体的・対話的で深い学び（いわゆるアクティブ・ラーニング）の実現に向け、平成27～29年度（3年間）において、独立行政法人教職員支援機構が実施した「新たな学びに関する教員の資質能力向上のためのプロジェクト」の成果を公表し、全体で協議することにより、各域内全体の指導方法等の改善に資する。

（開催日・会場）

（1）平成30年2月14日（水）（西部地区） エルガーラホール（福岡県福岡市中央区天神1-4-2）

（2）平成30年2月23日（金）（東部地区） 一橋大学一橋講堂（東京都千代田区一ツ橋2-1-2 学術総合センター内）

（プログラム）

10:00～10:15 開会

10:15～10:30 オリエンテーション（プロジェクト概要説明を含む）

10:30～11:30 発表「実践フィールド校の取組」 次世代型教育推進センター研修協力員

（東部地区）秋田、千葉、東京、長野、岐阜の取組 / （西部地区）滋賀、岡山、広島、徳島、福岡、鹿児島 of 取組

11:30～13:30 昼休憩、ポスター閲覧

13:30～14:30 発表「実践を通してアクティブ・ラーニングを考える」 次世代型教育推進センター研修協力員

14:40～15:50 講義「主体的・対話的で深い学びの実現のために（仮題）」

（東部地区）國學院大學教授 田村 学 氏 / （西部地区）京都大学准教授 石井英真 氏

15:50～16:00 閉会

◇ホームページにおける成果公表

<http://www.nits.go.jp/jisedai/achievement/index.html>

○「授業実践事例」の公表

*主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に取り組んでいる「授業実践事例」を紹介。

(125事例：平成29年11月時点)

8AAA 授業実践事例

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業実践事例を紹介します。

ピクトグラムについて

- 当センターでは主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程の質をピクトグラムでイメージ化しています。
- 各実践事例のピクトグラムは、その授業で実現された主な姿を表しています。**授業中・深い学び**
- 本単元、本時におけるすべての姿を表現したものではありません。
[ピクトグラムの一覧へ](#)

学校種	学年	教科等	実践事例
小学校	1年	国語科	事例の強みについて、観点を持って比べ
小学校	1年	算数科	図と結びつけながら、立式の根拠を説明
小学校	1年	音楽科	身に付けた技能を活用し、音を合わせる力を育成したい
小学校	1年	体育科	考えを広げ、深めて課題を解決する力を
小学校	2年	算数科	図、文、式を関連付けて考える力を伸ば
小学校	2年	算数科	算数の用語を適切に使って説明する力を
小学校	2年	生活科	地域の中で裏付いたことを、伝えたり、りして表現する力を育みたい
小学校	2年	生活科	身近な物から丁寧に観察しておもちゃを作った

学校名：安曇野市立三郷小学校
教科等：5年算数科（平成27年10月）
単元名：面積

対話する必然性を生み出し深い理解へ



見通しを持つ



思考を表現に置き換える



知識・技能

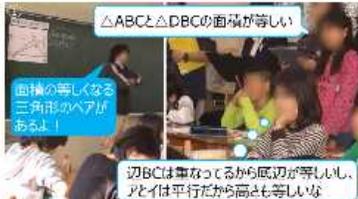
実践の背景

- 学校教育目標「自ら学ぶ子ども 心豊かな子ども 明るくたくましい子ども」模倣です。一人一人の児童に確かな学力を育むため、「主体的・協働的な学びが
- 学習指導案を作成する際には「**私の授業改善の課題**」を明記することが決める自身の課題を明確にしなが**ら授業改善に取り組めるように工夫**されています。
- 同じ校区の中学校との合同研修会（授業公開を含む）**を開くなど、地域の子供見つけ、小学校6年間、中学校3年間の学びをつなげようと努めています。

授業改善のアプローチ

- 算数科の研究テーマは「自分の考えを数学的に表現しながら主体的・協働的に研究」です。重点グループの教員は互いに授業を見合いながら研究を進めてき
- 本実践の授業者は**学級の児童が話し合う場面に着眼し、仲間同士で話し合いが実態を捉えました**。そこで、日常の学級経営から**意見を言い合える関係性の構築**
- 本実践は**対話を通して深い理解へ至る学習過程を改善するとともに、タブレット**

①提示された図から情報を得る



△ABCと△DBCの面積が等しい
面積の等しくなる三角形のペアがあるよ！
辺BCは重なってるから底辺が等しいし、AとDは平行だから高さも等しいな

図を提示した教師は「面積の等しくなる三角形のペアがあるよ」と問いかけました。子供たちは身を乗り出して図を見つめ、前時までの学習を活用して口々に予想を発言します。教師は子供たちと「△ABCと△DBCの面積が等しい」ことを共有し「底辺と高さが等しいから面積も等しくなる」という根拠を確かめ合いました。そんな中、もう一つのペアを見つけた児童が発言したくうズウズしています。

②追究方法を見通す



△ABEと△DECのペアも面積が等しいと思うんですけど…
授業の最後はそれを一人で説明できるようにしたい！

その児童は「△ABEと△DECのペアの面積も等しい(③)」と語りました。「そうそう！」「なぜ？」。子供たちが一斉につぶやき始めます。対話する必然性が高まったと判断した教師はこのペアの面積も等しいことを告げ、子供たちと追究方法を相談しました。その結果、「個人→グループ→全体」と考えてから「最後は一人で説明できるようになるう(④)」という学習の見通しを持つことができました。

③グループで課題解決を図る



うまく説明できないが
違うかもしれないけど私にも説明させて！
そうか！△EBCが重なってるんだ！

グループで話し合う場面です。うまく説明できなかった児童(⑤)も友達の説明(⑥)を聞き

④学習の成果を確かめる



私が書いた説明です
もう一度、説明してみよう

全体で説明を聞き合う場面です。教師は説明する児童の(⑦)も電子黒板(⑧)に映し出

授業実践事例の内容

実践事例 中学校1年社会科
 単元名：東アジア新時代～古代日本、歴史の舞台に登場！～

1 じっくりと深く考える学びの実現へ

2  見通しを持つ  協働して課題解決する  知識や技能を概念化する

3 実践の背景

- 実践校は開校して3年目の中高一貫校です。適性検査を経て入学する生徒は学習意欲も高く知識も豊富です。そんな生徒に「本物の実力」を付けるため、中高教員が連携して6年間を見据えた学校づくりをしています。
- 65分の豊富な授業時間を生かし、習得させるべきことを徹底し、考えさせるべきことはじっくりと考えられるような授業づくりを行っています。また、予習・復習にも重点を置き、授業と家庭学習の関連を図っています。

4 授業改善のアプローチ

「覚えることは一人できるが、考えることは一人ではできない」という考え方を教科会で共有し、授業内容と関連した予習を生徒に課しています。予習が前提となる授業を仕組み、生徒がじっくりと深く考える学びを実現しようとしています。また、対話する必然性が生ずる学習問題を設定したり、互いの考えを比較・検討するために必要な資料を学習プリントに載せたりすることで、グループ討議が単なる意見発表に終わらないための工夫をしています。

単元づくりのポイント

5 単元の目標

- 古代までの日本列島の人々の生活のあらましに対する関心を高め、意欲的に追究している。
【社会的事象への関心・意欲・態度】
- 縄文時代と弥生時代のちがいにについて考察し、その過程や結果を適切に表現している。
【社会的な思考・判断・表現】
- 小国のおごりから大和政権による統一までの過程を、文献資料、古墳の分布、鉄剣などの資料を通して理解している。金印や文献資料などから、古代の日本と中国をはじめとする東アジアとの関わりを捉えている。
【資料活用の技能】
- 稲作が伝来した後の社会の仕組みや、人々の生活の変化を理解している。東アジアとの関わり、古墳の広まり、大和政権による統一など、国家が形成されていったあらましを理解している。
【社会的事象についての知識・理解】

単元の展開

1大単元「日本誕生！」
 学習問題「先進地域である東アジア世界で日本が成り上がっていくにはどうすればいいのかわか」
 学習課題「当時の様子を、国内の出来事と東アジアの関わりに着目して捉えよう」

2中単元「東アジア新時代～古代日本、歴史の舞台に登場～」
 学習問題「先進地域である東アジア世界で日本が成り上がっていくにはどうすればいいのかわか」
 学習課題「当時の日本の政権と、中国・朝鮮半島の国々との関係性に着目して考えよう」

3小単元「激動の東アジア～悩み多き古代日本の国づくり～」：本時
 学習問題「大和政権は東アジアの中でどのような国づくりを進めたのか」
 学習課題「大和地方の様子と東アジア世界の状況に着目して考えよう」

1 単元を通して育てたい資質・能力、実現したい学びを簡潔に示しています。

2 授業改善の三つの視点から見られる児童・生徒の学びを、ピクトグラムによってイメージ化しています。

3 実践の背景
 「育てたい資質・能力」の育成に向けて、学校全体としてどのような取組を行っているかを示しています。

4 授業改善のアプローチ
 アクティブ・ラーニングの視点から、授業改善のアプローチを示しています。
 「児童・生徒にこういう力を付けるために、このような授業改善を試みた」というイメージです。

5 単元づくりのポイント
 児童・生徒が「何ができるようになるか」を明確にしながら、単元等のまとまりの中で、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図っていくことを示しています。

授業実践事例の内容

「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善

本時のねらい

- 大和地方を中心に国内が統一されたことを、古墳の広まりを通して理解する。
- さまざまな資料を通して、日本と中国・朝鮮半島との交流について気付く。

授業場面より

6

①本時を見通す



「たった一人の大王のために巨大な古墳を造ったのはなぜか(①)」。前時、生徒とともに練り上げた問いを確認した教師は**問題解決の手掛かり**を尋ねました。古墳が巨大化した時期の出来事を予習してきた生徒は多様な視点から**解決の方向性**を語ります(②)。**解決の見通し**を持った生徒は、根拠を明らかにしながら予想を記述していました(③)。

③全体で課題解決を図る



8

全体追究の場面です。グループの討議内容を③⑥のように全体へ説明します。仲間から新しい考えを聞いたり、自分の考えを説明したりすることは、**思考の深まり**につながります。教師はこのように多様な視点での考察が促されるように、説明するグループを意図的に指名したり、補足して考えを述べるように促したりしました。このような関わりが、⑦のようにさらに**新たな考え**を語り出す姿を生み出しました。

②グループで考えを交流する



10人グループの討議(④)は、生徒が進行します。生徒は古墳造営という事象を、この時期に**国内外で起きた出来事やその推移**に着目して捉え、それらの**因果関係**について考えています。教師は状況に応じて助言したりグループ間の意見をつないだりします。このような関わりによって考える内容が焦点化され、生徒同士が**活発に討議する姿**につながりました。

④関連付けて振り返る



9

振り返りの場面です。それまで聞こえていた生徒の声にかわって鉛筆を走らせる音が響く時間です。しかし一人一人の生徒を見ると鉛筆を持つ手を止めて資料集を見直し考え込む姿がときおり見られます。生徒はこのように熟考しながら本時の成果をまとめ、古墳造営の背景には**国内だけでなく東アジアとの関係性を重視した政治が行われていたこと**などを改めて自覚することができました。

本時の学習過程を場面に分けて示しています。

6

児童・生徒の学びを端的にリード文で表しています。

7

場面を象徴する写真を掲載し、児童・生徒の学びと教師の手立てが分かるようにしています。

8

児童・生徒の学びの姿とそれを支える教師の手立てを説明しています。

9

主体的・対話的で深い学びにつながる具体的な児童・生徒の姿を色を変えて示しています。

○「研修実践事例」の公表

* 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に取り組むための「研修実践事例」を紹介

(18事例:平成29年11月時点)

研修実践事例					
主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に取り組むための「研修実践事例」を紹介します。					
No	対象	タイトル	時間(分)	概要	ページ
1	校内	「深い理解」に至る過程を共有する授業研究会	45	「夢中になって学ぶ生徒の姿」に焦点を当てて授業を観察した後、外的な能動性だけに偏ることなく、内的な能動性にも着目し、思考ツール「マンダラチャート」を使って授業分析をする研究会です。	詳
2	校内	映像を使って生徒が学ぶ姿と教師の手立てとの関係を分析することや成果(Good)と課題(More)を明らかにし、日々の授業改善につながる視点を共有する研修です。	50	タブレットで撮影した授業動画を使い、生徒の学び姿と教師の手立てとの関係を分析することや成果(Good)と課題(More)を明らかにし、日々の授業改善につながる視点を共有する研修です。	詳
3	校内	ユニット(小集団)研修で協働力を培った授業研究	50	中学校や高等学校では、全教職員が一層に会する校内研究会は、各種条件のすりあわせが困難で、目標が取りにくい現状があります。これらを改善するために、考え出した方法が「ユニット研修」です。この方法で相互に協働力を	詳

鹿児島市立伊敷中学校(平成28年7月)

学校で目指す資質・能力の明確化・共有化を図る研修

各学校でカリキュラム・マネジメントを行っていく上で、全教職員が学校で目指す資質・能力を明確にし、共有化しておくことは欠かせません。自校の生徒に育成したい力を考えることで、学校で目指す資質・能力を明確化・共有化していきます。

I 実施背景と目的

- 実施校は研究校としての使命を担い、授業を中心とした実践的研究を行いながら、指導力の向上を目指すと共に、研究の成果を多くの学校や教育関係者に公表しています。
- 平成26・27年度は、国立教育政策研究所から示された21世紀型能力の三層構造に着目し、21世紀型能力の三層構造(「基礎力」・「思考力」・「実践力」)に着目し、生徒が問題解決的な状況の中で、どのように「基礎力」や「思考力」を発揮するのかを「実践力」という観点から捉え直し、授業改善を行うことで「生きる力」の育成を目指してきました。

○「研修プラン(提案)」の公表

* 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善につなげるための「研修プラン」を提案

(19プラン:平成29年11月時点)

研修プラン(提案)	
主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善につなげるための「研修プラン」を提案します。	
主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、授業改善に向けた取組を活性化するためには、教員が欠かせません。また、子供たちの現状・課題把握に基づいて、教員自身が「何のために研修を行うか」を振り返りながら、組織的で主体的な研修を行うことが重要です。研修プランについては、研修の型として捉えるのではなく、各学校の実態にあわせて工夫の上、ご活用いただければ幸いです。	

No	対象	時間(分)	目的	プランシート	スライド	ワークシート
1	校内 (主に高等学校)	45	グループ協議を通して生まれた疑問を、ホワイトボードを活用して、授業者と共に解決していくことで、授業改善に資することを旨とする授業研究会です。	word版 一太郎版 PDF版		
2	校内	80	協議の視点に沿って、学んでいる子供の姿を授業記録と照合・分析し、学校として育成したい資質・能力のイメージを共有し、その具現に向かう授業改善につなげることを旨とする授業研究会です。	word版 一太郎版 PDF版		
3	校内	90	授業の事実から教師が学べることを共有し、教科横断的な視点から授業改善に向けた取組を提案し合っていくことを旨とする授業研究会です。	word版 一太郎版 PDF版	PPT版 PDF版	

「※研修プラン」: 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善につなげるための研修を企画・実施する際に、各学校等で活用できるように、次世代型教育推進センターが作成したもの(各学校等の実態にあわせて工夫の上、活用いただくため、関連資料をwordやPPT等でダウンロード可能)

「オンライン講座で学ぶ。校内研修シリーズ」

～ 独立行政法人教職員支援機構ウェブサイトにて画配信中 ～

nits 校内研修シリーズ 検索

CONCEPT

各学校で実施する校内研修を60分と想定し、その中で活用できる**20分程度の動画**を提供します。本講義動画では、各テーマについて、基礎理論、または理論的整理と考え方の提示を行っています。

各学校の校内研修の始めに視聴し、それをふまえた演習・発表を行うことで、校内研修のさらなる充実を図り、教員の資質能力の向上を目指します。

- ・ 学校組織マネジメントⅠ
（学校の内外環境の分析）
- ・ 学校組織マネジメントⅡ
（学校ビジョンの検討）
- ・ チーム学校の実践を目指して
- ・ 新しい学習指導要領において期待される学び
- ・ 道徳教育
- ・ 学校のビジョンと戦略
- ・ キャリア教育
- ・ いじめ対策のポイントといじめ防止基本方針の改定
- ・ 学習指導要領
- ・ 総則とカリキュラムマネジメント
- ・ 教育と法Ⅰ（学習指導要領と教育課程の編成）
- ・ 教育と法Ⅱ（生徒指導）
- ・ 生徒指導
- ・ 自殺予防



総則とカリキュラムマネジメント：校内研修シリーズNo10 **校内研修**



学習指導要領：校内研修シリーズNo9 **校内研修**



新しい学習指導要領において期待される学び：校内研修シリーズNo4 **校内研修**

※当機構ホームページ→「研修教材」ページからは、[動画視聴 及び 資料\(pdf\)のダウンロード](#)が可能です。